

公告 昭 34.8.4 出願 昭 32.6.28 特願 昭 32-15985

出願人	發明者	アリス、オリン、バー グホルト	アメリカ合衆国イリノイス州アディン ン
代理人	弁理士	増 井 馨	(全2頁)

肘 の 治 療 装 置

図 面 の 略 解

図面は本発明装置の実施例を示し第1図は本発明装置を取付けた椅子の正面図、第2図は正面図、第3図は側面図、第4図は第2図切断線4-4の縦断側面図、第5図は平面図、第6図は肘掛部と薬剤容器を取除いた場合の平面図、第7図は容器の拡大断面図、第8図は容器と球の拡大平面図である。

発明の詳細なる説明

本発明は肘の治療装置に関しその目的は美容院の椅子に取付けて客が髪を乾かすために肘掛に肘を掛けて待っている間に荒れた肘を治療するものである。

本発明は球及び薬剤を収容する容器の直上に設けた開口部から肘掛に置いた肘を突入して該容器に肘を接触せしめるように美容院の椅子に嵌脱自在に取付けることを特徴とする肘の治療装置である。

本発明装置は第1～8図の実施例に示す如く椅子の肘掛に取付ける1対のU形締金11を具えた台盤10から成る。各締金11は螺子孔を具え螺子12に依て椅子の肘掛に締着する。台盤10は挿着板13を移動自在に載置し抑止片14に依て板13が徒に動かないようにこれを抑止する。挿着板13の中央凹処に嵌脱自在に取付けた容器15には、荒れた肘を治す薬液を入れ更にゴム、スポンジその他の多孔性柔軟材から成る球又は敷物15を回動自在に収容し嵌脱自在の蓋17に依てこれを定置する。台盤10に螺着載置した馬てい形の肘掛部18は放端部を前方に向けて配置しこの内側に肘を入れれば容器15に

肘が達する。

在来美容院で婦人客が洗髪してドライヤの下に腰掛け雑誌など見て空費する時間は長く又大多数の婦人の肘は荒れたまま治療を受けていない。

本発明装置は客が腰掛けた椅子に先ず締金11に依て据付け、腕を肘掛部18に置けば肘が球16に接触してこれを押回す。薬液を浸潤する軟球又は敷物を用いない場合には直接容器15内の薬液中に肘を入れる。この治療は客の髪を乾かす間に行われるもので、婦人にとっては整肘治療を受けることであるが、美容院としては同時にもうひとつの有料作業を為すことになる。

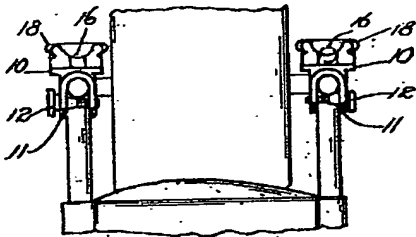
特 許 請 求 の 範 囲

椅子の肘掛に嵌脱自在に取付けた台盤に移動自在の挿着板を抑止し該板に嵌脱自在に設置した薬液容器の直上に台盤に螺着した肘掛部をその馬てい形放端部を前方に向けて配置し使用者の肘を肘掛部内側に置いて該容器に接触せしめる肘の治療装置。

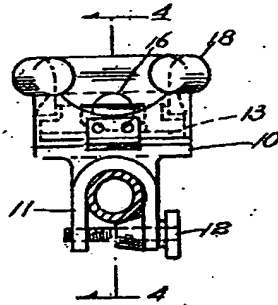
附 記

- 1 台盤に具えた1対の締金に依て移動自在に椅子の肘掛に取付け台盤上に挿着板を摺動するように設け該板に嵌脱自在に載設した容器に薬剤を収容し、肘掛部を持上げて置くことができるように台盤の縁に螺着しその馬てい形放端部の間隙に使用者の腕を置き肘を該容器に達するようにした特許請求範囲記載の装置。
- 2 容器内に薬液を浸潤する軟球を収容しこれを使用者の肘に依て回動するようにした特許請求範囲記載の装置。

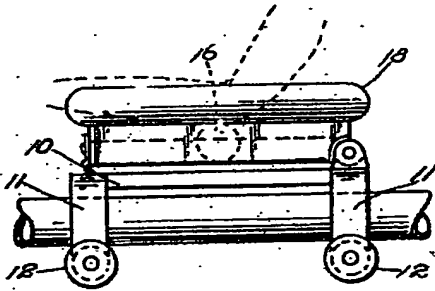
第1図



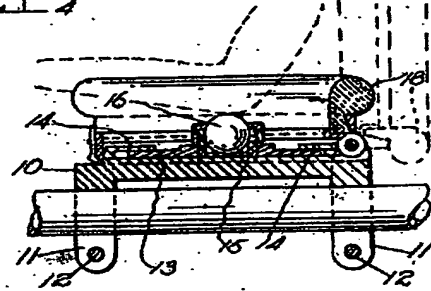
第2図



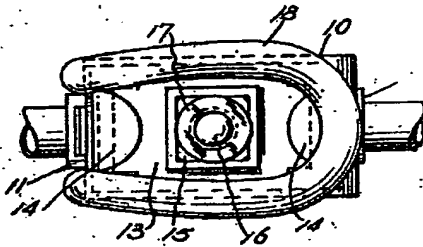
第4図



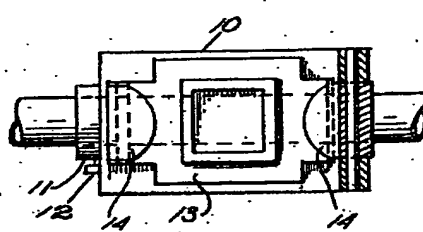
第5図



第6図



第7図



第8図

